

対話型鑑賞ワークショップ

～医療・福祉分野で働く方対象～

患者さん、利用者さんなどのケアに関わる方
アートを使って
コミュニケーションに新たな視点を取り入れませんか？

医療・福祉分野に従事されている方、これから従事されようとしている方を対象に対話型鑑賞のワークショップを行います。

唯一の正解のない美術作品を、複数人で対話しながら鑑賞します。

作品を“観察”し、“考え”を“話し”、ほかの参加者の考えを“聴く”などといった「みる・考える・話す・聴く」の繰り返しによって、観察力・思考力・コミュニケーション力を深め、広げることにつながります。

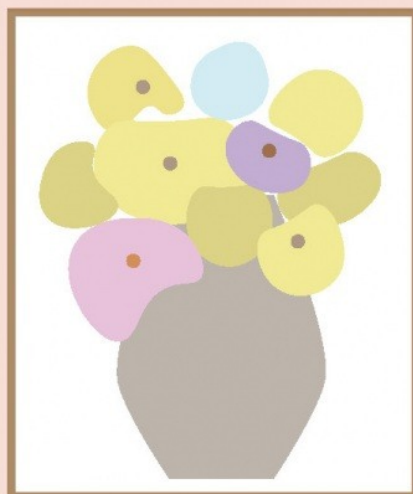
このワークショップでは作品の知識は不要です！

美術になじみのない方も楽しみながら学べます。

2022年 **11**月 **20**日(日) 10:00～17:00

福岡アジア美術館 8階あじびホール

お問合せ | (公財) 福岡市文化芸術振興財団 TEL 092-263-6265



紫の花が枯れて
見えます。

大きさはどの
くらい？

以前、私が育てていた花に
似ている。

- **日時** 2022年11月20日(日) 10:00～17:00(受付9:30～)
【前半】10:00～13:00 対話型鑑賞の基礎(レクチャー中心)
【休憩】13:00～14:00
【後半】14:00～17:00 鑑賞ワークショップ(鑑賞中心)
- **会場** 福岡アジア美術館 8階あじびホール(福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル)
- **料金** 3,000円(アジアギャラリー鑑賞チケット付き)
※当日精算 ※現金のみ ※ワークショップ中は、ギャラリー内での鑑賞はありません。
- **対象** 医療・福祉に従事されている方、これから従事されようとしている方
- **定員** 40名(応募者多数の場合は抽選。福岡市内勤務・通学の方優先)
- **申込方法** WEBフォーム、メールまたはFAXにてお申込みください。
▽メール・FAXの場合、以下を記載のうえお申込みください。
件名「アートを介した対話プログラム申込」
本文 氏名、ふりがな、電話番号、年齢、所属、
対話型鑑賞の体験の有無、申込理由
メール bosyu@ffac.or.jp / FAX 092-263-6259
- **申込締切** 11月6日(日) ※抽選結果は11月上旬にお知らせします。

▽申込み WEB フォーム



講師 伊達隆洋(アート・コミュニケーション研究センター研究員/京都芸術大学アートプロデュース学科 准教授・学科長/関西医科大学 非常勤講師)

専門領域は人間科学・臨床心理学。心理臨床現場での実践を行いながら、人の持つ「自分」という感覚とコミュニケーションの関係を研究。2009年京都芸術大学着任後は、学生への講義の傍ら、近年は美術館・博物館、教育関係者のみならず、企業においてACOPを礎としたセミナーを開催し、人材育成や組織改善に役立つとの高い評価を受けている。現在はACOPのファシリテーション・スキルを医療分野に応用しようという試みから看護教育などの医療従事者にまでそのフィールドを拡げ活躍中。

対話型鑑賞とは・・・

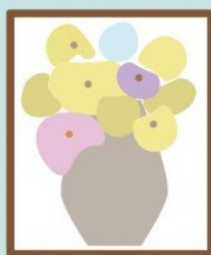
1980年代後半にアメリカのニューヨーク近代美術館(MoMA)で開発された美術鑑賞プログラムのVTC(Visual Thinking Curriculum)及び、後にVTC開発者の一人フィリップ・ヤノウィン氏が発展させたVTS(Visual Thinking Strategies)が日本に紹介され、「対話型鑑賞」と呼ばれ広まっています。

当初は美術館・博物館の教育プログラムとして開発されましたが、近年では学校、企業研修、医療現場などあらゆる分野で教育・人材育成等に活用されています。

▶「アートを介した対話プログラム」は、令和3年度から実施しています。参加者の声を一部ご紹介します。昨年度の様子は以下のコードから読み取ってご覧ください。



今日教わったことを生活者(すべての人)が少しでも理解できていると、不要な衝突を防ぐこと(対人関係上のストレス等もかなり減らすこと)ができるものの一つだと思いました。



対話型鑑賞を通して、物事に対する見え方、考え方が広がる心地良さを味わうことができました。

今回のワークショップは、アートだけでなく、対人援助の観点からも対話型鑑賞についてお話しいただき、アートとケアの親和性を感じて非常に興味深い内容でした。

他者と感じ取ったことを言語化して共有することで、こんなにも豊かさに広がりがあると、驚きました。